

仰心又と又皆感しける然るに中館の山王権現
と申すものは靈驗しあつたよ、崇敬せし世は深う
けるに、雖り之夢、我守あぶ代継の神子に座し
まゝ、——生れん皇百三代後、奈良院、天文十
五丙午歳、義孝の誕生——といふ出生の日より、山王権
現の宮の上より白幡虚空より降り、照空を七日の
り——とて、後迄——とて、語はく侍——其故、去年
天文十四年の秋、真言法師何某、阿闍梨とて、は子
誕生の祈、承けて百日の軍祭利、夜叉の秘法、改行

り、是を、ねよ、百より、満ず、曉、靈夢あり、ふ、今の
中館山王宮の法座、や、さし、また、虚空より、車と駒の
響の音、なり、怪——と、いふ、見上る、れ、玉の響と、かき
て、異類、異形の夜叉神、甲冑と帯——たる、を、充ち、
か、祈の師、なる、是、何の神の法、興、未、曉、を、な
る、と、大音、いふ、ある、いふ、雲中——と、さへ、ある、は
曩祖鎮守村の將軍、五願、家名を、失り、ん、る、城
歎、ふ、と、義守、錦——祈、誓、する、に、依、る、孝、行、乃
天、と、通、じ、志、誓、の、地、は、さへ、と、神、靈、止、む、を、得、ず